

# さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。  
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



(左)グローバルカフェ:古橋佑典さん、(中央)イカオ・アコ:木村容子さん、(右)ホープ・インターナショナル開発機構:松浦史典さん

特集

## 自転車から考える私たちの生活

この春、ようやくマスクの生活が徐々に緩和され、これまでより春の風を感じられるようになった。そこで今号では、自転車に注目。コロナを経て生活が見直される中、環境問題も考慮し自動車より自転車を生活に取り入れ始めている人も少なくないだろう。そんな自転車が生活の一部である、また自転車を愛するNたま修了生やNGO職員と座談会を開催。単なるエコだけではない、意外な自転車との関わりが見えた。一方で地方では?自転車から考える行政やNGOとの関わりは?

# 自転車から考える私たちの生活

コロナ下の生活を経て、生活改善に取り組む人が多い昨今。そのひとつに自動車中心の生活を考える。今号では都会で生活をし、自転車をこよなく愛するNGO職員やNたま修了生と座談会を開催した。通勤を自転車に変更・好きな自転車を使う仕事に転職・長期休暇で自転車旅に・体力も付いて生活が「筋肉質」になった？ 単なるエコだけではない意外な自転車との関わりを伺うことができた。

一方、地方ではエコの観点から自転車生活を選択するという考えは持ちにくく、自動車の必要性は高い。岐阜県で活動するNGO職員に伺った。



■たまたまというか、お三方とも「Nたま」出身ということで、よろしくをお願いします。

自転車歴、自転車との関わりは？

## 自転車が生活の足になりました

**木村:** 「Nたま」を修了し、それまでの仕事を辞めて「イカオ・アコ」に職員として採用され、さらに名古屋市市民活動推進センターでも働く中で、コロナ禍も重なって、二つの職場への通勤の足として自転車(クロスバイク)を買って乗り出したのが2021年2月。他に自転車(ロードレーサー)2台、持っています。自転車歴は2年ですが、すっかり生活の足となり、趣味でも乗っています。本当に丈夫になりました。スノーボードも長年やってきましたが、上のレベルの滑りができるようになりました。去年から、全く初心者でフットサルも始めたのですが、自転車をやっていなければ、走り回れなかったです。今ではすっかり「通勤サイクリスト」です。

## アメリカ留学時代の自転車を今も

**松浦:** 高校まで自宅から50分ほど、自転車(BMX)で通っていました。アメリカの大学に留学、5年半のポートランド暮らしで、2台の自転車(マウンテンバイクとロードレーサー)を愛用していました。ポートランドは、自転車にフレンドリーな街で、トラムにも自転車で乗れたり、もちろん自動車の国アメリカでは少数派ですが。西海岸2000キロを、1か月かけて自転車で旅したこともあります。アメリカ時代の2台をメンテナンスしながら乗り続けています。もう17・18年になるかな。

## 自転車旅がしたくて

**古橋:** 2015年に、今日も乗ってきた自転車(ロードレーサーに近いモデル)を買ったのが、本格的な自転車生活のきっかけでした。野球が好きなので、甲子園まで自転車旅をしたり、当時会社勤めでしたが10日間の休みに、紀伊半島一周800キロの旅をしたこともあります。自転車旅をしたかったのです。2022年2月から「ウーバーイーツ」を始めて、今に至っています。週末に「グローカルカフェ」、姉妹店の「喫茶モーニング」でも働いています。好きな仕事だけで生活したいという思いで三つの仕事を掛け持ちしています。「ウーバー」は、1時間に4件の配達を目標に、自転車をこぐのが好きなので「流し」で走っています。コロナ禍が終息傾向で、仕事は減ってきています。







## ■自転車と自分の暮らし方や、市民活動との関わりは？

### 車はほとんど乗らなくなりました

**木村:** 市民活動推進センターの出張(講師の仕事)は、全て自転車で行ってます。守山区まで走って行って「今日は名古屋駅の近くから自転車で来ました」、講師としての「つかみ」もオッケーです。自転車通勤などのルートは、自転車乗りの方にはストレスが多い、自動車との軋轢を避けるべく「広い一方通行」の道を探したり、遠回りしても庄内川沿いの堤防道を走ったりして工夫しています。駐車が苦手な車は、ほとんど運転しなくなりました。

### 自転車に買い物カゴ

**松浦:** なんかないかなあ。そうだ「ホープ」の前代表のカナダ出身の方が自転車好きで、「チャリティラン」のグループに参加して、太平洋側から日本海側のルートを走ることによって寄付を集めるようなことをしていました。生活のためには車は手放すことはできませんが、マウンテンバイクに買い物カゴを付けて利用しました。車は、駐車場代なども含めた維持費もかかります。車はありますが、自転車で行けるところは、車を使わないようにしています。

### ウーバーはどこでも仕事ができます

**古橋:** 絡める内容が思い浮かばないなあ。「ウーバー」のことで話すと、実はアプリで登録をすれば、全国どこでも配達の仕事が拾うことができます。旅の目的を兼ねて、旅先で仕事を拾いながらすることもできます。京都・大阪・神戸と、「ウーバー」をしながら旅したこともあります。もちろんお店が

## 自転車の種類

### ①BMX

小径の車輪に頑丈な車体で、衝撃を吸収する装置があり、未舗装路(オフロード)などの悪路も走ることができる。街乗り用にもなるマウンテンバイクの、競技用本格派。

### ②クロスバイク

マウンテンバイクとロードレーサーの中間にあるタイプ。未舗装路も走れ、街乗りに適している。

### ③ロードレーサー(ロードバイク)

細いタイヤ、ドロップハンドル、軽い車体で、本来レース用に作られたタイプ。もっぱら舗装路(オンロード)の高速走行に適している。

ないと仕事が拾えないので、田舎ばかりではダメですが。あの「ウーバー」バッグも必須でもないです。レンタル自転車で配達するような人は、他地域から来て仕事を拾っている人もいるかもしれません。あれは電動アシスト型なので、楽しんでしょし、私は嫌いです。

### 人生が変わりました

**木村:** そうだ、タンDEM自転車(二人でこぐ自転車)を使って、目が見えない方と自転車に乗るボランティアサークル「TAKENOKO」に参加しています。庄内緑地公園に備えられているタンDEM自転車を利用して、サイクリングコースをペアになって走っています。視覚障がい者の方の、「自転車に乗ってみたい」という思いに応える活動です。後部席で主に動力となってもらい、共同で自転車を楽しめます。気になったことにすぐ関わっていく性格が、「Nたま」後に加速しているのかも。「イカオ・アコ」で働き出してから、市民活動推進センターでも働き始め、名古屋NGOセンターや「ボランティア・ネイバーズ」にも関わり、それまで「避けていた」保護猫や保護犬の活動にも参加するようになり、すっかり「スポーツウーマンになりました」。人生が「筋肉質になりました」。

今は、フットサルに夢中になっています。神戸に最良のチームがあって通っています。神戸である理由は、松本光平選手との出会いです。プロサッカー選手だった彼が、事故で片目を失明、もう一方の眼も弱視という中で、すごく前向きで、以前、Fリーグのデウソン神戸で晴眼者に混じって活躍されていたからです。自分でもフットサルをやってみて、どハマりしました。サッカー経験はゼロでしたが、自転車のおかげで体力だけはあります。コロナ禍になったこともあって、デスクワーク中心の生活から劇的に人生が変わってきました。

(担当:中島、桜井)

## 自転車生活・地方では 岐阜県不破郡垂井町（特活）泉京・垂井

名古屋では自転車でエコ生活ができますが、地方ではなかなか難しいのでは？  
そこで、(特活)泉京・垂井(せんと・たるい)のスタッフの鉄井宣人さんにインタビューしてみました。



—前ページでは、名古屋の人々の自転車生活を紹介してきましたが、地方の場合はどうでしょう？

私は、以前は名古屋で生活していたので、どこへでも自転車で行くという感じでした。でも、今住んでいるのは山の中で、泉京・垂井に出勤するのも車で40~50分かかります。泉京・垂井の副代表の神田浩史さんは自転車で来てますけどね。

—地域における移動手段として、車や自転車の他に公共交通機関の状況はどうでしょう？コミュニティバスはどこ市の町村でも見かけますが、実際にはとても本数が少なく利用しにくいですね。

垂井町の場合は、4路線の巡回バスがあり町全域を走っています。ただ、平日は1時間に1本走っていますが、土日は走らず、日常の交通手段として十分とは言えないかもしれません。中心部はある程度平坦な地域ですが、町の東から西へ関ヶ原方面に向かって、標高が高くなっていくなど、勾配のある地形となっています。また、地域の商店が減っているため、生活必需品を買うには国道沿いのチェーン店などへ車で行く方が便利なのが多いです。

—免許を返納した高齢者は移動手段がなくなってしまうますが、何かサポートをしているのですか？

町としては、運転免許返納者には巡回バスの1年定期券を発行するような取り組みを進めています。泉京・垂井としては、現在、地域の方から依頼されて、空き家の活用を支援しています。そこは周辺部の山麓地域なんですけど、お店もないし地域の人たちがちょっと食事するような場所も集まる場所もないんです。持ち主の希望としては歴史のある建物だから残したいということと、空き家を活用して、地域の人々がそこで食事できたり、医療や福祉の拠点にできたりという場所にしたいという想いを持たれています。私たちとしては移動をサポートするより、各コミュニティの中に集まれる場所を作るサポートの方が得意だと考えて、支援をしています。これも移動困難者へのサポートの1つだと考えています。

このケースでは所有者の方が積極的ですが、どうやって不足する資金を集めるか苦心している段階です。

—垂井町の行政と泉京・垂井とのかかわりはどうですか？泉京・垂井は「あどぼの学校」という政策提言の取り組みを全国の団体と連携していますね。このような点から垂井町からも一定の信頼を得てパートナーとして活動しているんですか？

地方では同じような状況にあるところが多いとおもいますが、NPO活動をしている団体がまだ少なく、地域の人たちや行政にNPO活動というものがしっかり理解されているとは言いがたい状況があります。「非営利の団体とは何かの宗教団体か？」などと考える方もあるようです。地域に理解してもらえるよう、地道に活動を続けています。

—「自転車」というテーマに戻ると、地方では車が利用できない場合の補助的手段ですか？

中高生の通学や、身近な移動手段としての利用はされていますが、名古屋のようにどこまでも自転車でだけ行けるといった感覚はないかもしれません。ただ垂井町の観光協会では、駅前レンタサイクルを貸し出しています。その一部は電動自転車です。レンタサイクルを使って町内の店舗を利用することでレンタル料のキャッシュバックを行うという企画を実施しています。観光の視点では大きな可能性があると感じています。また、垂井町には製造業はじめ企業がかなりあるので、岐阜県の中では外国籍の居住者が多く、彼ら彼女らの中では自転車を使っている人が多いです。全体としては、エコライフを意識して自転車を使おうという動きにはなっていないのではないのでしょうか。

(担当:内藤)



**皆**さんお元気ですか。早いもので愛知を離れ長崎に来てもう14年が経ちました。長崎は日本で一番島が多い県とされていますが、離島での医師不足が深刻な問題です。それに対応するため、人手の足りない医療機関に応援医師を派遣する「しますけっと団」という制度ができました。

9年間勤めた長崎大学を退職し、この制度に登録した私が最初に派遣されたのが、五島列島の北端にある人口2000人ほどの小値賀島の町立診療所でした。長崎市から高速バスで1時間半、そして佐世保港から高速船で1時間半の合計4時間以上かかる「通勤」は当初はなかなか大変でしたが、慣れとは恐ろしいもので、2年間毎週通ううちにあまり気にならなくなりました。

10年以上も臨床現場から離れていたのが当初すこし不安もありましたが、診療所のスタッフのサポートも受け、何とか勘を取り戻すことができました。たまにある「瀬わたし」(夜間とか時化などで定期船が出ない時に小型漁船で緊急患者さんを本土の病院に運ぶこ

エッセイ  
**NGOの散歩道**  
第37回

「日本で最も美しい村」

小値賀島

と)に同乗する時は一気に緊張感が高まりますが、それ以外はゆったりとした島時間の中で患者さんたちの話を聞くことができました。

一昨年、この島にフルタイムの医師が赴任されたので、現在は他の島の診療応援も行うようになりました。長崎県には人の住む有人島が74ありますが、これまで小値賀も含め7つの島に応援に行ったので、残り67島を制覇しようと目論んでいます。

小値賀町も少子高齢化が進んでいますが、平成の大合併の時にも佐世保市には合併せず町として残ることを選択するなど、独立独歩の気風が溢れています。しかも人情厚く、魚はうまい、海はきれい、と三拍子そろった小値賀島。「日本で最も美しい村」の一つにも選ばれています。博多からもフェリーで5時間でするので、九州に来られた際には足を伸ばしてみたいかがでしょうか。

元アジア保健研修所事務局長、  
元名古屋NGOセンター理事 **佐藤 光**

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

**NANGOC RECOMMENDS**

なんごく

りこめんず

vol.75

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org ※「NANGOC」とはNAGOYA NGO Centerの略です。



**ぼけと利他**

伊藤亜紗・村瀬孝生 著



ミシマ社刊 2022年 2,640円

最近ミシマ社の本にハマっている。けれど、この本はタイトルだけ見た時には読みたいとは思わなかった。「ぼけ」という言葉も「利他」という言葉も字面だけ見ると、なんだか薄っぺらい印象。「認知症の高齢者をいたわる利他の人」みたいな内容なのではないかと勝手に思い込んでしまったのだ。でも、金山にある大好きな本屋(TOUTEN BOOKSTORE)の店長が奥が深いと推薦してくれて読む気になった。

確かにお年寄り(著者のお二人は高齢者という言い方をされていない)をめぐるお話には違いないけれど、ぼけでも利他でもない、人の心の動き方とか魂の見え方とか、生き方の真髄みたいなお話がお二人の往復書簡を通して螺旋階段を上り下りするように綴られる。お二人の個人的なお手紙のやり取りをなるほどなるほどとうなずきながら読んでいくと、どんどんお年寄りの脳内に潜む沼の世界にハマって行って抜け出せなくなる。タイトルだけ見て敬遠するのはダメ、人も本も中身だと悟った。



**旅と手仕事の雑貨店・語学教室 ルティカ**



2017~19年に名古屋NGOセンターで非常勤職員をしていた堀川絵美さんが、2021年から豊橋市でフェアトレード商品を扱うショップを開いています。

社会の課題に何らかの形でアプローチしているもの、作っている経緯や過程が自分の言葉で説明できるもの、作っている団体の顔が見えているものなどから商品を選んでいるそうです。NGOセンターの関係団体のものも扱っています。

店名にフェアトレードショップをつけない理由を尋ねると「関心が強い方たちだけではなく他の層にもアプローチしたいから」ということです。堀川さんらしいこだわりです。まずは更新頻度が高く、つい買いたくなってしまおうブログを見てほしいです。



〒440-0895 豊橋市花園町95  
クレセントビル1階北側  
(豊橋駅から徒歩5分)  
月火木:10:30~16:00  
(16:15から1対1の個人レッスンの英語教室も開いています。)  
土日:10:30~19:00  
水金祝:休  
Mail: rutica@tees.jp

ブログ



# Nたまのいま

No.47



ひがし けんご  
Nたま14期生 東 憲吾さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てるコミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002～2022年度までの19回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は274名。のべ151名の修了生がNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？  
第47回はNたま14期生、東憲吾さんにお話を伺いました。

## 社会課題を構造的に見る

### ■社会貢献を仕事にしたいと思うようになったきっかけは？

僕自身が障がいをもった兄弟がいる当事者という点です。兄たちと接する中で、社会が整備されていないから生きづらい想いをしているのでないかと感じていました。また、高校生の時に東日本大震災の被災地から引っ越してきた人から現地の壮絶な状況を聞きました。そこから政治や原発の問題に関心が向くようになりました。

### ■Nたま研修期間中に印象に残っていることは？

一番に浮かぶのは講師の織田元樹さん（（特活）ボラみみより情報局代表）がNGO・NPOのおもしろさと厳しさについて本気で教えてくださったことです。中でもひとりの人間ができることには限界があるという言葉が印象的です。織田さんとお話させていただく中で感じたことは、確かにひとりの人間にできることは限りがあるけれど、そのひとりを増やしていき、関心の総量が増えていけば社会が良くなっていくということです。

### ■Nたまで学んだことで現在、役立っていることは？

Nたまの講座で学んだ、社会の見方・捉え方が現在の仕事で生きています。それは、なぜ社会問題が発生してしまうのかということについて、構造的に社会を見る

ことが大事ということです。どのような背景があって課題が生まれているかということを理解し、どういうアプローチをしていけば、困っている人が減っていくかということもNたまで学びました。

### ■お勤め先の「株式会社Ridilover（リディラバ）」について教えてください。

リディラバは「社会課題をみんなのものに」をスローガンに掲げていて、僕は、webメディアの「リディラバジャーナル」の編集者です。社会問題を構造的に見てどこに課題があるのか様々な人に話を聞いて明らかにしています。読者は「社会課題に対して活動されている方」が多いです。状況の背景を知る教科書のように活用して下さっています。

### ■社会課題について記事を書くときに気をつけていることは？

記事を書くときに僕たちが大切にしていることは価値中立ということです。社会課題にはたくさんの人が関わっていて、一概に誰が悪いということが言えないケースが多々あります。ですから、当事者や被害者の方々の自己責任というのではなく、社会の構造が複雑に

絡み合っ結果的に起きているということが僕たちが伝えたいメッセージです。

### ■Nたまクラウドファンディング（2022年11月に開催）の記事をHPに執筆してくださいでしたが、どのような想いが芽生えましたか？

開設当初からある、NGOとスタッフのミスマッチであったり、人材が育たないという課題は20年近く経った現在でも起きていることです。今回104人というたくさんの方にご支援して下さることになりましたが、社会を良くしたいと思っている人は増えています。そのような人たちの第一歩を提供してくれるNたまは、もっともっと多くの人を巻き込んでいけるポテンシャルがあると感じています。



社会問題を構造化するメディア「リディラバジャーナル」  
詳しくはWebサイト参照

（担当：渡辺）



## センターの動き

## 政策提言

## 「日本社会の希望」 JICA中部共催による「多文化共生パートナー育成講座」報告

名古屋NGOセンターはJICA中部と共催で「多文化共生パートナー育成講座」を開催しました。ユースを対象に、海外ルーツの人々と無関心層をつなぐ橋渡し役になってもらうことを目的としました。

三回連続講座の一回目は金友子氏(立命館大学准教授)の講演で無意識の差別・偏見について理解し、体験型ワークショップにより気づきの機会としました。参加者は57名でした。第二回では、海外ルーツのライフステージ(教育と就職、労働、老い)について現場からの報告と、課題分析ワークショップを行い、問題の構造を理解し、アクションにつなぐヒントを得ました。

第三回では、海外ルーツと地域をつなぐ橋渡し役として、課題解決に向けたアクションを発表し、専門家や活動家から講評をいただきました。最終的には22名が3回のコースを修了しました。ルーツにかかわらず地域の福祉の課題に取り組む講評者の金順愛さんから

「若い世代が一生懸命考えて発表している姿はとても素敵。日本社会が変わっていく希望を見せていただいたとおっしゃっていたことが心に残りました。



大学生の司会による  
アクション発表会(3月19日)

(報告:代表理事 中島隆宏)

## 人材・活動育成

## 成功した「Nたま」クラウドファンディング

Nたま研修が財政問題で継続危機!?ということで、理事会で継続寄付のクラウドファンディング(以下クラファン)をすることが2021年に決定しました。2022年6月にNたま修了生、関係団体職員、理事などが集まってチームを結成。約5ヶ月にわたり準備してきた甲斐もあり、目標の100人を達成することができました。クラファンで得た成果は主に2つあると思っています。

1つ目は目標の100人を超える104名の方にサポーターになっていただいたことです。継続寄付というハードルがあったにもかかわらず、2ヶ月でこれだけの人数がサポーターになってもらったのは、研修を続けてきた成果であると思っています。それにより、今後もNたま研修を行うことができるようになりました。

2つ目はNたまファンの存在。主にNPO・NGOまたはソーシャル

セクターで活躍する修了生はもちろんのこと、Nたま生の就職先団体の皆様、研修時の受け入れ団体や講師の方などです。クラファン期間中にNたまの過去と今を振り返るオンラインイベント(佐藤光さんも登場)も行い、研修内容についても一緒に考えてくれる仲間が増えたと感じました。

約半年にわたる研修が19年も続いているのは全国的に稀で貴重な人材育成の機会であることも再認識することができました。より学びを深める研修にするために、今後も皆様からのご支援と、今回のクラファンで集まった仲間の協力により継続していきたいと思っています。

今後もNたまを応援してください!

(報告:理事 松浦史典)

## 活動報告カレンダー 2022年8月1日～2023年2月28日

### ●ネットワークング

- ・シーテック クリック募金2022(6～1月)2万クリック達成
- ・ナゴヤアドベンチャーマラソン チャリティ先団体登録・当日運営ボランティア(10/30)
- ・全国ネットワークNGOの集い 参加(11/26)
- ・ボラみみアワード受賞&表彰式 参加(11/26)

### ●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):8～2月 507件、出張相談(8/7@森の音楽祭、12/3@ばらマッチ、12/6@金沢学院大学、12/10@国際協力カレッジ)、第2回外務省NGO相談員全国連絡会議(12/6-7)

### ●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』11月号発行(1,000部)・発行(10/18)

情報発信		8月～2月
ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	13
	中部NGO情報ひろば更新回数	22
facebook(フォロワー数1,387人)	更新回数	114
メルマガ(登録数257人)	配信回数	33

### ●政策提言

- ・NGO・JICA協議会 出席(9/21)
- ・NGO外務省定期協議会 出席(11/1)

### ●人材・活動育成

- ・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2022(Nたま) 講座(8/6,8/27-28,9/3,9/17-19,10/1,15,11/5,12/4,12/18,1/14,2/18) 修了式(2/25)
- ・Nたまの成果を振り返るオンラインイベント(11/3)
- ・国際協力カレッジ2022 オンライン開催(12/10)
- ・東海地域NGO活動助成金 最終選考会・助成団体決定(2/26)

### ●運営

- ・理事会(9/20,11/22,2/7)
- ・職員会議
- ・READYFOR 継続寄付クラウドファンディング実施(11/1-12/26)
- ・名古屋NGOセンター忘年会(12/22)

かけこみ女性センターあいち	20万円
外国人ヘルプライン東海	10万円
セイブ・イラクチルドレン・名古屋	20万円
名古屋学生青年センター	20万円
(特活)平和のための戦争メモリアルセンター	10万円
(特活)NIED・国際理解教育センター	20万円

# 会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2022年8月1日～2023年2月28日

## ●賛助会員(個人)

【更新(賛助会員A)】加藤克也、篠田英次、松本慎太郎、稲葉健吾、加藤寿子、丹羽輝明、蒲池卓巳、株根秀之、佐竹真明、松尾朋之、笠原聡太郎、川島紀之、遠山涼子、長町諭、東憲吾、佐藤玲子、外村悠、堀川絵美、藤井典夫、今井田正一、横井春香、貝谷京子、梅村紀彦、守屋保美、瀬川義人、鈴木英司、北村祐人、尾崎寿光

【更新(賛助会員B)】山口大輔、西川侑里、小森夏末、田中幸男、平井英司、森元裕恵、細井和世、松田則雄、伊佐次 歩

【新規会員】松田朋佳、加藤明宏

## ●寄付者(物品なども含みます)

【一般寄付など】貝谷京子、佐治正幸、滝栄一、浜田ゆう、丹羽輝明、真如苑、募金箱

【東海ろうきんNPO寄付システム】伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、目加田貴弘、山田志帆、松下和哉、土肥和則、八木蔵、中島正人

【Nたまサポーター】

・協賛企業 岡谷鋼機株式会社、連合愛知

・寄付サポーター

伊藤幸慶、浅野陽子、堀川絵美、今井田正一、小久保紀子、岩田崇、遠山涼子、横山紀子、藤村昭子、曾我部行子、松本恭一、貝谷京子、山田淳一、伊沢令子、海野香織、匿名

・継続(年間、マンスリー)サポーター

塩田匠弥、加藤里紗、松浦史典、春田みな美、原田篤実、八木蔵、栗田佳典、村上沙智代、大須賀恵子、中島正人、東憲吾、西川侑里、横井春香、佐藤光、木村容子、青木研輔、中尾さゆり、斉藤順子、高橋美和子、池住義憲、工藤泰三、鉄井宣人、渡辺祐樹、中島隆宏、神田すみれ、落合佑哉、関口威人、高木雅成、河田昌東、天野友貴、竹内由美子、笠原聡太郎、田中典子、三ツ松由有子、大川元嗣、貝谷京子、松本恭一、小池康弘、岩瀬孝弘、藤本潔、黒田朱里、裏見登志子、古橋佑典、廣井修平、窪川佐紀、和田さとみ、瀬川義人、遠山涼子、中垣貴裕、河合良太、筒井広治、株根秀之、吉岡嗣晃、吉川典子、桃井義博、和田信明、尾崎寿光、田中由衣、加藤信一、岸本正好、村田元夫、北村祐人、藤井朋子、坂部武志、小森夏末、熊澤友紀子、伊沢令子、寺田裕美、鈴木二葉、谷川毅、榎原浩之、松中みどり、斉藤尚文、和喜田恵介、篠田英次、佐藤元紀、武藤由師、青山岳史、浅野愛美、野村満里奈、柴田英知、久世治靖、磯村さやか、川島知司、金子佳南、川合真二、福嶋聡子、高野菜、櫻井裕子、奥村優佳、水谷洋子、二角智美、丹羽俊策、チェルノブイリ救援・中部、山本梨恵、佐藤遼、平林義康、龍田成人、中島正博、西井和裕、後藤優里、細井和世、大屋正人、松浦良子、前倉英人、石川博仁、近藤公彦、吉田弘生、神谷周作、柴田さくら、森元裕恵、尾関智枝

【外貨】

## ●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー186円/楽天60ポイント

## 事務局のひとこと

Nたま研修の新しい動きが始まります。コロナで自粛・委縮していた国際協力。新たな担い手の育成研修として、スタッフ・支援者の創意工夫で、より魅力的な内容、形態となっていけばと願います。引き続き、ご支援を。(戸村)

## 編集後記

Nたまのパンフレットでライターと紹介されていた東さんのことをずっと気になっていました。いつかお話ししたいと思っていましたが、今回、「Nたまのいま」でインタビューできとてもうれしかったです。初めてさんぐりあの編集に携わりましたが、皆様のアドバイスがありがたく、貴重な経験をさせていただきました。(渡辺)

昨年4月の会報発送作業に参加。そこに木村さんがさっそうと「自転車姿」で登場、ひとしきり自転車の話題に花が…。遅れて現れた古橋さんが、「ウーバー」の配達バッグを持って参入。俄然、自転車話で盛り上がりました。当初まさかと思っていた特集テーマに自転車が決まり、本当に紙面化されました。私も自転車仲間です。(中島)

企画展・パネル展

# HOPE

学びを未来の力に変える

Learning Continuity

Education for All

Leave no one behind

写真:田中博康/JICA

5/18(木)開催!

アクセス|名古屋駅から徒歩13分  
開館|10:00-18:00

名駅・ささしま  
休館日|月曜・年末年始  
(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

JICA

なごや 地球ひろば

## フェアトレードのオイルで癒しのハンドマッサージはいかが?

### 5月はフェアトレード月間!

7日 なないろマーケット

27日 フェアトレード・デーなごや出店予定

風”Sは移転します★最新情報はSNSにて!

顔のみえる店～FAIR TRADE 風”S (3.～ず)

〒461-0015 名古屋市東区東片端町49  
正文館書店本店2F  
TEL&FAX : 052-932-7373  
MAIL: huzu.fairtrade2@gmail.com

## 総会案内

2023年度の定時総会を開催します。オブザーバー参加を希望される方は事前に事務局までお問合せ下さい。  
日時:2023年5月20日(土)10時～12時 開催場所:名古屋NGOセンターシェアスペース及びオンライン(Zoom)

発行:特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター  
会報編集委員:市川隆之、中島正人、桜井裕子、内藤裕子、丹羽輝明、貝谷京子、村山佳江

協力者:廣井修平、渡辺祐樹  
レイアウト:久由紀枝

発行日:2023年4月18日  
印刷:山本印刷株式会社

## 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F  
TEL&FAX:052-228-8109 URL:<http://www.nangoc.org>  
E-Mail(代表):[info@nangoc.org](mailto:info@nangoc.org)

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <https://nangoc.org/support/>

②郵便振替(口座番号)00860-5-90855(口座名)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター